

2020/11/26 (木)

創立記念日

聖書 ルカによる福音書 10 章 25-37 節 (新約 126 頁)

25 すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか。」 26 イエスが、「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」と言われると、27 彼は答えた。「『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」 28 イエスは言われた。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」

Love Your Neighbor

本日、ここに静岡英和女学院は創立133周年の記念日を迎えました。この一年も変わらない神様の恵みと導きを与えられたことを感謝します。また私たちの家族、PTA、母の会、後援会、同窓会、大学、法人、維持協力会、教会、地域の皆様のご理解とお支えに感謝しましょう。そして中井弘和学院長先生、エディフォス・ケントPTA会長、同窓会の皆様をお迎えして感謝の礼拝を献げられますことを感謝します。

最初に、この一年の間にこの世を去られ、神様のみもとへ旅立たれた同窓生、歴代の先生方、校長先生、理事長先生を覚えて、共に魂の平安をお祈りしましょう。しばらく目を閉じて黙祷して下さい。

(黙祷)

ありがとうございます。

さて今年の英和祭のテーマは「時代」でした。まさに私たちは世界的に広がる感染症と向き合う時代、歴史に刻まれる時代を共に過ごしています。4月、クラスメートや担任の先生の顔もわからないままオンラインで一年が始まりました。次々と中止、延期になっていくメープルコンサート、修養会、研修旅行、体育祭、一ヶ月遅れの入学式、始業式、6月に再開した授業、部活動、生徒会活動、そして9月の体育祭、11月によ

うやく迎えた英和祭、いつ終わるのかわからない感染予防、自粛する生活に疲れを覚えながら、いつもとは全く違う時代を過ごしています。

でも、私はこの一年も英和生の素晴らしさは変わらなかったと感じています。むしろ皆さんは、より“今”を大切に歩んでいると感じています。礼拝での祈る姿、教室やグラウンドから励まし合う声、部活動での笑顔、体育祭での応援、英和祭でのパフォーマンス、友だちを思い、後輩を励まし、先輩を慕い、先生方が英和生を愛しみ過ごしてきました。またご家族、同窓会の皆さん、英和生を見守る皆さんが陰で支えて下さっていました。そして、皆さんは不安と向き合いながら患者さんと接する医療従事者の方々への感謝の思いを横断幕にしました。それが133年の間、英和生たちが変わらず大切にしてきたことではないでしょうか。

そして、この創立記念を迎える一週間、早朝祈祷会では英和生たちが考え、感じていることを話してくれました。そして朝の礼拝では卒業された先輩方が人生の困難を乗り越えられたご経験をお話下さり、恵みにあふれた創立記念日を迎えることができました。

まさに卒業リングに刻まれた“*Love Your Neighbor*”の言葉が、たとえどんなに時代が変化しても、変わらない英和の宝であり誇りであることを感じられる日々でした。

最後に、最近伺った二つの出来事を皆さんにお話しして、神様への感謝の思いをお伝えします。

一つは外部の男性からのお電話で知ったことでした。その日の朝、この男性のお父様が静岡駅で急に倒れた時、居合わせた通学途中の英和生が立ち止まり、すぐに救急車を呼び一命をとりとめたというお礼のご連絡でした。その英和生は何も言わずに立ち去ったとのことで、お名前も伺えないままでお礼を申し上げたいというご連絡でした。

もう一つは、先週、来年中学校受験を考えておられる小学校6年生とお母様がお二人で本校へご来校された時のことでした。お二人が廊下で待っている間、そこを通り過ぎた一人の英和生が笑顔で「こんにちは」と挨拶をしてくれたそうです。お嬢様もお母様もとても感激して、ぜひ英和女学院に入学したいと言われて帰られたそうです。

英和は新しく迎える134年目も“*Love Your Neighbor*”の下に、変わらない心で歩み続けます。

祈祷 祈りましょう

私たちを愛し、励まされる主よ。

あなたは昔、遠いカナダの地でカニングハム宣教師によき志を与え、この西草深の地に「静岡女学校」を設立して下さいました。あなたの深い摂理に心から感謝いたします。しかしこれまでの歩みの中にはキリスト教教育が禁止された時もあり、また戦時中の静岡大空襲では校舎が全焼するという悲しいこともありました。戦後、再び同窓生はじめ海外の宣教師、信徒の方々の篤い祈りとご支援によって英和女学院は復興しました。そして、今、世界の人たちと共に、私たちは新たな困難と向き合っています。どうか日々、感染症と向き合う医療従事者の方々をお守り下さい。そして世界の人たちと共に喜びと感謝を献げる日へとお導き下さい。この言い尽くせない感謝と願い、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン